

Harvard School of Public Health (HSPH)

ハーバード大学公衆衛生大学院

武見プログラム視察について

1. 出張期間: 平成 26 年 6 月 5 日 (木)
2. 出張先: ボストン (アメリカ)
3. 出張者: 石井常任理事
4. 内 容:

1983 年に「医療資源の開発と配分」を唱え国際保健の向上に貢献した武見太郎元日本医師会長の功績を称えハーバード大学が同大学公衆衛生大学院に設置した武見プログラムは、昨年 30 周年を迎え、記念シンポジウムが日米で開催された。日本医師会は、当プログラムの設立当初より継続して支援をし、特に 1994 年以降は、5 年を期間とする覚書を締結してその関与を明確にしてきた。

今回の出張では、31 年目を迎えた武見プログラムの将来構想を論じ、また、覚書の更新を行うため、デビット・ハンターHSPH 国際保健人口学副学長、マイケル・ライシュ武見プログラム指導教授との面談及び、本年 6 月 30 日に期限を迎える同プログラム支援に関する本会と HSPH との間の 5 年間の覚書の更新を行った。今回の覚書では、低所得国からのフェロー2 名に対する奨学金の項目が加わった。

現在、武見プログラムは、51 カ国 242 名の武見フェローを輩出しており、中には、インドネシアのナフィシア・ムボイ保健大臣等、国の政府中枢にあって、国民医療の改善、国際保健の向上に努めているフェローも多い。しかし一方で、財政難からアフリカなど途上国からのフェローが奨学金を得られず応募を断念するケースが増加している。そのため、新たな奨学金制度が設置され、覚書に盛り込まれた経緯がある。

その後の武見フェローによる研究発表では、9 名のフェローによる報告、石井常任理事による各報告者に対するコメント及びアドバイス、質疑応答が行われた。また、同大学院等に所属する日本人研究者との懇談を行った。

6. 2013-2014 年武見フェロー報告者

氏名	所属	研究テーマ
Melani Cammett (アメリカ)	ブラウン大学准教授	中東におけるプライマリケアの質
Maryam Farvid (イラン)	シャヒド・ベヘシュティ医科大学地域栄養学部准教授	思春期、成人期の食習慣と乳がんのリスクとの関係
Nadia Spada Fiori (ブラジル)	ペロタス連邦大学 社会医学部教授	ブラジル南部におけるタバコ栽培従事者と喘息の兆候
Chun Hao (中国)	中山大學、広東省	男性間性交渉における HIV 検査推進のためのモバイル通信を利用したピアツーピア通信の有効性
Tamil Kendall (カナダ)	メキシコ市 HIV 上級アドバイザー	女性の権利と現実：ラテンアメリカにおける HIV と性・生殖医療を統合する政策と実践について
Sujin Kim (韓国)	ソウル国立大学公衆衛生学部、保健環境研究所研究員	韓国における癌スクリーニングの公平性に関し個人負担を軽減する政策の有効性
Tae-Jin Lee (韓国)	ソウル国立大学公衆衛生大学院教授	国民皆保険は、韓国において適切な財政保護となるか
馬場真利香 (日本)	順天堂大学公衆衛生学部 研究員	日本にとっての最近の国際栄養政策の実践と意義
富岡慎一 (日本)		日本における地方自治体間の介護保険認定率の違いについて